

経済トピックスと解説

温暖化防止バリ会議 「ポスト京都」枠組み模索

11月27日(日経朝刊)

地球温暖化を防止する国際的な枠組みを話し合う国連の気候変動枠組み条約締結国会議が12月3日から14日までの予定でインドネシア・バリ島で開かれる。焦点は先進国に二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)をはじめとする温暖化ガス排出を減らすことを定めた京都議定書の期限が切れる2013年以降の温暖化を防ぐ「ポスト京都議定書」の枠組みだ。



銀閣寺 12月の佇まい

《解説》・・・地球温暖化問題について考えてみます。

- (1) バリ島で気候変動枠組み条約締結国会議COP(Conference of the Parties)13が開かれています。温暖化ガスの大手排出国である米国、中国、インドが不参加など、問題点も多く各国の思惑が交錯しています。それでも温暖化防止は待たなしとのコンセンサスは得られており、大いなる進展が期待されます。
- (2) アル・ゴア前米国副大統領は、今年のノーベル平和賞を受賞しました。彼は「人類は文明継続への脅威という地球規模の緊急事態に直面している。」と述べています。まさに的を得た表現ではないでしょうか。
- (3) なぜこのような温暖化ということが生じたのでしょうか。もともと地球誕生時には地球の大気は、水蒸気、炭酸ガス、窒素、塩化水素などによって構成されており、酸素は存在していませんでした。地球上にまず植物が生息しこの植物が炭酸同化作用によって、炭酸ガスから炭素を抜き取って(CO<sub>2</sub> + O<sub>2</sub>という化学変化により)植物の本体となる有機物を作ると同時に、分離した酸素を空气中に放出したのです。
- (4) 古代より何億年という長い時間をかけて、植物が石油、石炭、天然ガスなどの化石燃料を地中に蓄えてきました。人類は、近代になって産業革命などを経て、この化石燃料を燃やして、大量生産・大量消費時代を出現させました。すなわち、文明の発達で、植物が長い間かかって捕捉し有機物中に格納した炭素Cを、炭酸ガスCO<sub>2</sub>として再び空气中に開放したということです。
- (5) 京都議定書では、「2012年におけるエネルギー消費量を1990年比6%削減する」という目標が、日本に課せられました。20年近くも遡って(さかのぼって)かつ6%削減するということは、ちょっと考えただけでも、並大抵のことではないことが分かります。案の定、日本は6%削減どころか、逆に8%ほど増加しそうな状況です。まだまだ官民とも本気にはなっていないように思われます。
- (6) 日本が今行おうとしている対策の大部分は、エネルギー節約と効率向上です。そして、最近になって二酸化炭素排出権の購入に力を入れ始めました。経済の成長発展を維持したまま、温暖化ガスを削減しようとしています。もちろんこれを何としても実現せねばなりません。生活様式を20年以上前に戻すとしたら、経済は破綻し生活は大混乱するでしょう。
- (7) しかしそれと合わせて、ぜひ取り組むべきは樹木を増やすことだと思うのです。何故ならこれこそ

が、植物によりCO<sub>2</sub>をCとO<sub>2</sub>に戻すという、自然界がもともと営んできた行為だからです。自然の力を最大限活用する方法が、副作用のない本筋の対策ではないでしょうか。開発の名の下、自然林が大胆に切られるのを見るに堪えません。例えば、切り倒した木の2倍の本数の植樹を世界的に義務付けるなどの施策はとれないものでしょうか。

## 株式状況と解説

### 米欧5中銀、緊急資金供給 サブプライム対策、17日より実施 (12月13日日経朝刊)

米国、欧州など5つの主要中央銀行は12日、緊急声明を相次ぎ発表し、各国の短期金融市場に大量の資金を供給する方針を表明した。各国中銀が協調して資金供給するのは初めてで、米国の信用力の低い個人向け住宅融資(サブプライムローン)問題を発端とする金融不安の沈静化を目指す。

#### 《解説》

(1) サブプライムローン問題は、月を追うごとに悪化しているようです。だんだんと将来見通しについて悲観的な論評が増えてきました。しかし、その度合いはゆっくりとしたもので、世界がパニックになるという感じはありません。その一つの理由が、上記のように、米国FRBを中心として欧米中央銀行が、この問題の鎮静化を図って次々と対策を打ち出していることがあるように思います。

(2) ともあれ、このサブプライム問題の今後の進展の度合は世界中の誰もわかりません。しかし最近のように、マイナスの論調が多くなってきている時は要注意です。じっくりとした対応が基本ですが、一部の資金(10~20%程度)を株式から債券に移すことも考慮に入れるべきタイミングと考えます。勿論、じっと嵐が通り過ぎるのを待つというのもありますが。

なお、この記述は株式等の売買をお勧めするものではありません。売買の判断はご本人でなさってください。

## お知らせ

### 師走にあたって

本年も、12月最終号となりました。一年間、マンスリーレポートにお付き合いくださり有難うございました。皆様からしばしば温かい、建設的なご意見を頂きました。お陰様で多くを学ばせていただきました。紙面をお借りして御礼申し上げます。



京都 東福寺の紅葉

### 次回セミナーのお知らせ(来年のことになりますが)

テーマ：ゆとりあるセカンドライフを過ごすために

※金融機関では教えてくれない資産運用のポイントについてお話しします ※

日時：2月16日、3月22日(いずれも土曜日) 10:00より11:45

場所：つくば国際会議場 401号 (4階)

参加費：1家族1,000円 (Tel, Fax, ホームページ) などご予約下さい)

皆様で、お出かけください。

以上

このレポートの記述は、株式、保険等の売買を推奨するものではありません。株式、保険等の売買は自己の責任において行って下さるようお願いいたします。

ご意見、不明点など御座いましたらお気軽に連絡下さい。なお複写、転載はご遠慮下さい。

発行人：スズタカFPオフィス 代表 鈴木隆志 茨城県つくば市東新井4-2メゾンヴェールつくば612号

Tel, Fax: 029-861-0778 携帯: 090-4423-9147 E-mail: suzu@suzutaka.org URL: <http://www.suzutaka.org>